

越嶺会報

令和3年(2021年)12月10日

第91号

発行 越嶺会本部

〒930-8555(富山市五福3190)

富山大学経済学部内

☎(076)445-6411(ダイヤルイン)

Fax (076) 445-6419

郵便振替 00710-9-14562

越嶺会ホームページ

越嶺会

検索



大学の門前に建設中の学生マンション

来春3月竣工予定の7階建66室の大型建物(2021年10月撮影)

もとは農協、児童館があった場所。昭和60年ごろまでは、その一角に清明堂五福支店があり、2、3軒隣には瀬川書店五福支店もあった。

目次

定年退職にあたって

富山大学でお世話になって 森岡 裕 …… 2

富山大学を去るにあたって 金 奉吉 …… 4

母校だより

教員の異動 …… 6

経済学部定員増

資料室だより …… 6

高商3回洲崎吉郎氏遺品

本部だより

寄付金御礼 …… 7

2021年ホームカミングデー報告 …… 7

越嶺随想

関東越嶺会の思い出など 長谷川健郎 …… 8

会員の訃報 …… 10

澤井政夫さんを偲んで 福田 明 …… 10

澤井政夫君の逝去を悼む 桑野 重英 …… 11

富山大学経済学部創立百周年記念事業に

ご意見・アイデア募集 …… 12

卒業論文をお返しします …… 12

会報発行協力金のお願い …… 12

富山大学経済学部(旧制高岡高等商業学校)

100年のあゆみ …… 13

富山大学基金だよりNo.18 …… 14

定年退職にあたって



富山大学にお世話になって

森 岡 裕

一九八五年(昭和六〇年)に富山大学経済学部に着任し、昭和、平成、令和と三つの時代に渡ってお世話になりました。長くただで大学・学部への貢献がなく心苦しいのですが、二〇二二年三月に退職するにあたって印象に残ったことを書かせていただきました。と思います。記憶違いや勘違い等がありましたら、ご容赦ください。

着任した時は現在の研究棟ではなく旧研究棟でした。天井が高く部屋も広く、これを一人で使えるのはすごくありがたい(贅沢な)ことだと感じました。蛇口から出てくる水は、夏は涼しく冬は暖かい水でした。それは、水道水ではなく井戸水だからとのことでした。それで新しい研究棟

(現在の研究棟)に移った時には、これからは水道代がかかるので大変だというような話を聞いた覚えがあります。

着任した頃(一九八〇年代後半)は、論文や文書作成は原稿用紙に書ききという時代でした。図表の作成はグラフ用紙に書ききでしたし、清書前の下書きを丁寧に行う必要がありました。完成直前になつて、最初の方にミスがあることがわかれると大変でした。このことは、ゼミ生の卒業論文の作成について助言する時にも当てはまります。

今なら、構成やレイアウトを変更したり文章を組み替えたりすることは簡単にできますが、そのころは書ききですから、最悪の場合最初から書き直しとなります。

管理・運営関係では、日程調整がかなり大変な仕事でした。今ならメールで日程照会をするのが普通ですが、当時はそのような便利なものはありませんので電話や文書で照会することになります。委員長の先生方や事務の方は大変な苦勞をされていました。授業関係では、土曜日も授業を行っていました。世の中の流れとしては、月に一、二回土曜日が休みという状況でしたが、大学の場合そのようなことはできませんので学期中はすべての土曜日に授業が行われていました。また施設に関しては、冷房(エアコン)は教室に設置されていませんでした。それで七月も九月もエアコンなしに授業を行っていました(当時は、七月半ばで前期の授業を中断して夏休みに入り、九月に前期の授業を再開してその後前期末試験を行っていました)。あの頃は今ほど温暖化していません。たのかもしれない。

九〇年代にはいるとパソコンが普及し始めましたが、私も含めてワープロ専用機を使う人が少なくありませんでした。

た。図表も含めて文書作成に関しては、パソコンよりワープロの方が早くて便利という状況でした。若い方はご覧になったことがないかもしれませんが、文書の保存や文書のやりとりをフロッピーという媒体で行うようになりました。また論文の提出にあたって、フロッピーを郵送するというようなこともありました。

二一世紀に入ると、今と似たような状況になりました。ワープロ専用機は姿を消し、みんながネットに繋がったパソコンを持つて仕事をするという環境です。先に書いた卒業論文の助言も大きく変わりました。添付ファイルで受けて、それを添削して返送するというようなことも可能になりましたし、章・節の入れ替えや追加・削除等が簡単にできますので、大幅な変更を伴うような助言も行いやすくなりました。ただ一箇所(パソコン本体)で保存しているだけだと、パソコンが壊れたら、必ず複数の媒体で保存するように勧めています。



フリスタフォーロヴァ先生の研究室にて
右から フリスタフォーロヴァ先生、トラヤコヴァ先生、森岡

自分の専門分野（比較経営（ロシア）について触れさせていただきます。
ロシアについては、桂木健次先生とウラジオストクを訪問（一九九一年十二月）したことが印象的です。ご存知のようにソビエトは一九九一年に崩壊します。私たちが訪問したのはちょうどその時期でしたので、入国した時はソビエトでしたが、出国した時はロシアとなっていました。訪問先は、極東国立大学とソビ

エト科学アカデミー極東支部国際経済・海洋開発研究所でした。当時は環日本海経済交流と環境協力が重要なテーマとなっていました。それで国際経済・海洋開発研究所のトラヤコヴァ先生にコーディネートしていただき、環境問題の専門家のフリスタフォーロヴァ教授（極東国立大学）と国際経済の専門家のサヴァレイ副所長（国際経済・海洋開発研究所）と意見交換を行いました。環境問題については、主に桂木先生が担当されました。環日本海交流については、先が見通せないながらも冷戦が終わって交流が活発化していくのだろうという期待感がありました。
中国は何度か訪問しましたが、コロナ禍の少し前の二〇一八年十二月に開催された国際フォーラムへの参加が印象に残っています。龍世祥先生に声をかけていただき、このフォーラムに参加することができました。レジメや資料等は英語に直しましたが、龍先生が通訳してくださいますので発表は日本語で行うことができました。中国最南端の海南島（東隣はフィリピン、

西隣はベトナム）で北方の話（ロシアの石炭部門の輸出戦略）をいたしました。十二月



第3回 海島経済発展国際フォーラム

でしたので日本を出る時はセーターにコートを着ていましたが、海南島の気温は二十度前後でしたので、セーターもコートも不要でした。海口経済学院の先生や学生は皆半袖でした。学内（会場間）移動用のバスは、全部電気自動車でした。

最後に
経済学部教職員、学生、院生の皆様に支えられて、無事定年を迎えることができました。これまでのご支援に感謝するとともに、経済学部のますますのご発展をお祈り申し上げます。

もりおか・ゆたか
経済学部教授



第三届海島经济发展与国际合作论坛
The 3rd Island Economic Development and
International Cooperation Forum

会议手册
CONFERENCE AGENDA

主办单位 海口经济学院
Organizer: Haikou University of Economics

时间: 2018年12月6日至9日
6th December-9th December, 2018

フォーラムのアジェンダ



富山大学を去るにあたって

金 奉 吉

二〇〇二年四月、富山大学に着任してから二十年が経つ時点で定年退職を迎えることになりました。外国籍である私にとつて二十年間の富山生活を振り返ることは、思い出深いことも多く、何か一味違う感じがします。これは、今までの私の富山生活を支えてくれた家族と、富山大学を通してお世話になった多くの方々への感謝の一筆です。

日本経済への興味と留学

私は韓国大邱市の出身で、韓国で大学卒業（一九八三年）後に来日し、神戸大学大学院経済学研究科での六年間留学生生活（経済学博士）を終えて帰国し、ソウルで研究所と大学で勤務しました。一九九九年に再び来日し神戸大学経済経営研究所（助教）を経て、二〇〇二年四月

に富山大学経済学部教授として赴任して現在に至っています。二〇〇三年四月からは、二〇〇一年に設置された富山大学極東地域研究センターの教授も併任し、本年度まで研究、教育ならびに経済学部・極東地域研究センターの運営に携わってきました。

「なぜ日本に来たのか」とよく訊かれます。私が大学を卒業する頃は海外留学がブームで、留学先はほとんど欧米でした。とりわけ経済学のよいな社会科学分野での日本留学は珍しく、なぜ日本なのかと言われました。私が日本留学を決心したのは、大学生のときの日本留学経験を持つ先生からのご推薦と奨学金のこともありました。日本経済について強い関心でした。大学で日本経済についての講義を受けてから日本の急速な

戦後復興や日本企業の技術開発力に興味を持ち始め、少しずつ勉強することになりました。それから日本全般について興味を持つようになり、結局日本留学まで決心することになりました。

「旅の人」の楽しい富山生活

富山に着いたときは、市内中心部から少し離れると道にはほとんど人影がないなど「ほどよい田舎」のような感じで海外に来たという感じがしませんでした。

しかし、富山に来てからの初経験は相当厳しいものでした。恩師である神戸大学の先生とともに富山でのアパート探しに来たときのことです。物件を見て回ってから契約しようとしたら突然富山県在住の保証人が必ず一人必要であるのとこのことでした。それは外国人だけではなく日本人でも同じであるとのことでしたので、私も恩師も驚きました。保証人として一緒に来られた恩師は、その話を聞いてから呆れた表情で躊躇なく私にアパート暮らしは諦めて大学の宿舎に入りなさいと

言いました。神戸での宿舎生活を経験した私としては、富山では家賃も安いので、より快適なアパート生活を夢見てきましたが、私のアパート暮らしは夢で終わりました。

穏やかな田舎のような太閤山宿舎での生活でしたが、私の家族が慣れるまでには少し時間がかかりました。自家用車がないと動けない、近所のスーパーの親切な店員さんの富山弁でのお話は半分程しか聞き取れませんでした。電車やバスは通勤・通学時間以外には格段に便数が少なく、市内の路面電車は便利ではあるが、スピードも遅く、たまに時間になっても現れないなどの時間の流れ、テンポに慣れるのに苦労しました。また、冬には太陽を見る日が少ないことはいまだに厳しいです。

時間が経つにつれ慣れるというか現地化されると、富山は最適の生活環境に変わってきました。とりわけ、季節ごとに変わる立山連峰の景色、温泉、美味しい食べ物とお酒があることは最高です。私としては、自然の豊かさに囲まれて立山連峰の景色を眺めていると「運氣が上がる」よう

な感じがして、ストレスがたまってきたときや論文が進まないときには立山連峰を眺めることが習慣になっています。

富山に着いた二〇〇二年の大雪山と立山連峰の雪景色は一生忘れられない感動でした。朝起きてから太閤山宿舎五階のベランダで眺める周辺の真っ白の雪景色、歩けないほど積もった雪、とりわけ、これまで映画とTVでしか見られなかった立山連峰の風景はいまだに忘れません。勿論、駐車場の除雪と電車が停まり子供を学校まで送り迎えすることとは大変でした。しかし、ドライブが好きな私にとって、積雪の路面を走ることは初めての経験で事故の危険性や怖さもありませんが、その何倍もの爽快感と感動がありました。

楽しかった富山大学での研究と教育

大学生活には慣れるのに少し苦労もありましたが、幸いに経済学部先生たちとは早く親しくなれたと思います。一人食事が苦手の私が赴任初期に最も心配してたのが「ランチ友」作りでしたが、周囲



長野県への温泉旅行

の先生たちが声をかけてくれてほっとしました。また、同じ年に赴任した経済学部の先生方を中心に市内の居酒屋を飲み歩いたり、週末や休みの日に立山連峰を登ったり、スキーや温泉旅行に行ったのは忘れられない思い出です。

赴任して間もないうちに、神戸から来られた先輩の先生が私の研究室にいられてアドバイスしてくれました。印象に残っているのが、富山での生活のコツの一つとして、富山生活に慣れるのに焦らないこと、つまり、自然を楽しむながら余裕を持って生活するようにと言われました。当時

その方も富山にいられて十年以上経つてますが、いまだに「旅の人、よそ者」の扱いされるときがあるということでした。私の場合、このように周囲の配慮もあって大学生活に早く馴染むことができ、それが私の富山生活の大きな支えになったと思われます。

私の研究は主に、東アジアを中心とした国際貿易・国際分業であり、貿易データなどを使った国際競争力や工程間分業についての理論的・実証的研究です。特に、富山大学



に移ってからは一九九〇年代に急速に進展したTPPやRCFPのような二国間・多国間地域貿易協定がサプライ・チェーンと国際分業に及ぼす影響についての研究を進めてきました。

また、極東地域研究センターの先生たちと赴任初期から「北東アジアアカデミックネットワーク(NAAN)」、NIHU(人間文化研究機構)の「ネットワーク型基幹研究プロジェクト」(二〇一六、二〇二一年度)など多くの国内外のプロジェクトに参加しました。それとも関連して国内外の研究者との共同研究、国際コンファランス開催・参加、中国や韓国への現地調査など国際的な研究ネットワーク作りと拡大に積極的に取り組み、一定の成果もあったと思われまます。そして、それが私の研究の質や幅を広げることにともなりました。その間に研究グループとともに中国やASEANに進出した富山県企業への現地調査も数多く行いました。その時には県企業の皆様から多くのご協力をいただきました。この場を借り改めて感謝申し上げます。



2005年10月タイ進出の富山県南砺市・三光合成(株)の現地調査

いまだに記憶に残ることは、民主党政権時代ですが、二〇一一年にT P P参加をめぐる地方公聴会である「金沢平成開国フォーラム」に「なぜ平成の開国なのか？」というテーマで私が講演を行いました。その後J A関係者など多くの方々と長期間厳しい議論が続いたことです。

次に、教育については、学部では「開発経済学」、「国際マクロ経済学」等を、大学院では「東アジアの経済開発特殊研究・演習」等を担当してきました。ゼミ生とのゼミ合宿、焼き物(陶磁器)体験やボーリング大会など多くの思い出を作ることができました。

た。また、日中韓の学生との相互訪問を通じた交流にも積極的に参加しましたが、言葉はうまく通じなくても活発な討論が行われ、すぐ友達になるのを見て驚きました。このような国際交流はお互いの文化や価値観などを知る良い機会であって学生からも評判でした。

経済学部での運営では、二〇一八年四月から経済学科長に任じられ四年目になります。が学部・大学院の改革が求められるなかで学部と学科の運営にかかわってきました。

最後になりますが、初めて富山に着いた時にはいろんな面で不安も大きかったのですが、多くの方々の支えもあって富山生活を楽しくむようになりました。これまで私を支えてくれた皆様には、心より感謝申し上げます。これからも普段自分自身が心掛けている「春風秋霜」の言葉の意味を胸に刻み込ませながら両国の間の「草の根の交流」の活性化に微力ですが一翼を担いたいと切に思っています。

キム・ボンギル
経済学部教授

母校だより

教員の異動

前号の訂正
転出 小池未来先生は二〇二〇年四月に特命講師から講師に転換されていました。

経済学部定員増

二〇二二年度から経済学部をはじめ五学部の定員が増える。金沢大学との教員養成課程の共同化により人間発達科学部を教育学部に変え定員を一七〇名から八五名に半減させるに伴う措置。経済学部は三〇名増の三六五名になる。

大学院の改革・再編

二〇二二年度から経済学研究科は、人文社会芸術総合研究科に再編され、同科の共経済プログラム一八名となる。(七頁ホームカミングデーの学長説明をお読みください)

資料室だより

寄贈品紹介

高商3回洲崎吉郎氏遺品
剣道部卒業記念の漆塗名刺入



洲崎吉郎氏(一九〇八一—九三五)は柏崎市出身。高岡高商在学中に露西亜語を学び、剣道部の代表的選手。卒業後は民間に就職し、善隣書院で支那語を習得。宮島大八(詠士)の推薦により大同学院に無試験入学し、一期生となる。一九三二年「満州国」黒龍江省木蘭県副参事に任官、三四年綏濱(スイヒン)県参事官となるが、一九三五年八月三日羅北県境で殉職。享年二八。一九三六年に殉職地の碑、翌年には任地松花江と黒竜江

合流点近くに記念碑が建立された。地元柏崎市では三回忌に妙行寺に細川護立題額、宮島詠士書による記念碑が建立された。

修学旅行中に悲報に接し、現地での慰霊祭に参列した小寺廉吉教授は二度、同窓会誌に追悼文を寄せ、著書『先駆移民団』(一九四〇)でも言及している。また、洲崎氏の卒業論文、参事官在職中の報告書などを収載した高岡高商東亜科研究班編『洲崎吉郎遺稿 附り追憶集』は一九四二年に作成が開始され、未完のまま善隣書院に保管されていた。

洲崎氏の甥、清司氏(柏崎市在住)から遺稿・追憶集をはじめとして、碑文原稿や東畑精一書簡など様々な資料を二〇一五年から寄贈いただいた。関連資料は小熊信行文庫内で保管し、サイトで案内している。

富山大学↓経済学部↓資料室
↓高岡高等商業学校
アドレスはこちら
<http://www3.u-toyama.ac.jp/dsec/suzakihm>

前号の訂正

大熊先生 九一歳↓

(正) 八一歳

昭和四八年度関東支部総会にご出席の恩師の方々を紹介した写真です。翌四九年には経済学部創立五〇周年記念講演をされています。

本部だより

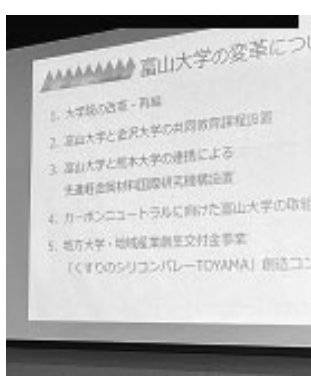
寄付金御礼

左記の方々からご寄付いただきました。記して御礼申し上げます。

短大 六回	山本勇喜雄様	三千円
学部三三回	故辻勝彦様	三千円
学部二二回	竹澤喜孝様	一万円
学部一五回	故渡辺禎助様	一万円
学部一〇回	岡田恒夫様	四千元
学部 九回	室橋外茂男様	一万円

富山大学 ホームカミングデー

「新型コロナウイルス感染症と富山大学の使命」をテーマに、医学部主催・同窓会連合会共催で、二〇二一年一〇月二三日(土)午後一時から杉谷キャンパスで開かれた。会場参加やオンラインでも聴講できるハイブリッドで実施。



1. 大学院の改革・再編は「人」と「地」の健康を

科学する大学」を踏まえてSDGsの達成に貢献できる人材育成を目指した。

従来の六分野三二九名を三分野に改め新設二分野を加え五分野四〇〇名に改組する。

経済系の教員は人文社会芸術総合研究科の共創経済プログラム専門科目を担当する。

2. 金沢大学との共同教育課程設置 先進的な教育内容を提供しきめ細やかな学生指導が可能になる。多様性のあるカリキュラムを開設できる。

3. アルミの富山大学とマグネシウムの熊本大学との連携によるチタンを含めた先進軽金属材料国際研究機構の設置

4. 地熱発電の最適地立山カルデラの地元の利を生かして地熱発電やカーボンリサイクルの事業化などカーボンニュートラルに向けた取り組み

5. 地方大学・地域産業創生交付金事業として「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアム これら五本を柱として「富

山大学の令和の大改革」を進め、富山大学を「おもしろい大学」にします。

OBOGの皆様にはこれまで以上に温かいご指導ご支援をいただけますようよろしくお願いします、と結ばれた。

続いて、林篤志附属病院長が「富山大学附属病院の使命と新型コロナウイルス感染症への対応」と題して、附属病院の位置づけは、

1. 県内唯一の特定機能病院として高度先進医療の三五診療科と一四センターで担っている、

2. 富山県の地域医療の基幹病院として、がんゲノム医療拠点、地域がん診療連携拠点病院（高度型）であり、

3. 研修医や専門医の教育、コメディカルの育成をおこなう臨床研修基幹病院であると説明。

コロナ患者を受け入れつつクラスター発生の老人保健施設、障害者施設に連日診療に通い感染を終息させた。多くの企業、団体、個人から支援をいただいた。

ワクチン接種にも、医療従事者、高齢者の集団や個別接

種、職域接種に協力し、地域医療の最後の砦として頼れる安心の富大病院となっていると決意・説明をされた。

丸山小百合看護部長が「感染症対応における看護部の果たした役割」を看護部の人数や体制説明の後、病棟転換、ゾーニング、患者対応、他病院への看護師派遣、精神的な支援として職員同士のピアサポート（仲間支援）が効果あったなどを話された。

コロナ禍における医療人材育成—医学教育国際認証への対応—を関根道医学部長が話された。コンピテンシー基盤型教育（何ができるようになるか—知識・応用・演示・実践）を充実させている。高い国家試験合格率を維持していると話された。

会場やオンライン参加者からの質問もあり盛り上がったところで、最後に寺林敏・同窓会連合会会長が、時宜にあった内容豊かな企画を実施してもらい感謝しますと挨拶し閉会した。

越嶺随想

関東越嶺会の思い出など

長谷川 健郎



一、はじめに

十八回（昭和四五年卒業）の長谷川健郎です。昭和二二年富山県井波町生まれ育ちの七四歳です。富山県立井波高校出身で、現在は東京で生命保険と相続支援の会社を二八年経営しております。富山県出身であるためあって、地元富山大学経済学部を卒業したことを誇りに思っています。令和六年には経済学部創立百周年を迎えます。心から慶ばしく思います。

二、「木彫のまち井波」

わが故郷の町、井波のご紹介

を少々、紹介させていただきます。井波は平成十六年に旧砺波郡の八か町村が合併して今は富山県南砺市になりました。西は金沢市に、南は岐阜県に隣接する富山県南西部に位置する、人口四万八千人の世界遺産五箇山合掌造りを抱える市です。その中の旧井波町は創建六百三十年の浄土真宗本願寺派瑞泉寺の門前町として栄えてきました。お寺のお蔭で寺院彫刻に端を発して、今でも木彫刻産業が盛んです。寺院彫刻や欄間や獅子頭では日本有数の産地で、木彫刻師が二百人もいます。この伝統ある町に生まれ育ったことも私の大きな誇りです。美術家の兄を初め親類には漆芸家もあり、伝統を守り継いでいる姿勢には敬服します。隣町の砺波市庄川町には、庄川峡を始めいい温泉や鮎焼きの美味しい料理屋さんがあり、井波と合わせて楽しんで頂けると確信しております。

私は、相続セミナーや相続相談で年に三、四回は東京から井波に帰省しております。これをお読みになった人には、井波に来られる際にご案内します。その節は是非ともご連絡

絡ください。お待ちします。
連絡先: hasegawa@abcclife.jp



三、富山大学のこと

昭和四一年四月に入學しました。幸い新樹寮入寮に当選して、新築間もないC棟に入ることができました。大学と言いか経済学部に入ったことよりも、この寮に入寮したこととで、多くの想い出ができ、また多くの仲間、友人ができたことを幸せに思っておりま

れて「C棟歌集」を制作してコンパの時には大声で歌い、大いに盛り上がったものでした。D棟は女子寮で、年に一回だけ男子が立ち入ることが許されて、少々の悪ふざけをして、叱れられたことも苦い思い出のひとつです。

さて、キャンパス生活では、空手道部に入部していました。黒田講堂の後に専用道場があり恵まれていました。素足での冬の呉羽山ランニングも楽しい思い出のひとつです。お蔭で初段に昇格したときは嬉しかったです。空手道部の仲間です。市内のビアガーデンでのアルバイトもいい経験でした。アルバイトは卒業時に数えてみましたら、五十数種類を経験し、働くことの楽しさを大いに満喫したのではないかと思います。

学業面では、日本育英会の特別奨学金を支給されていたこともあって、低い成績ではまずいという意識から、また先生方の講義がどれも面白くて分かり易かったこともあり、幸い良い成績が残せました。ただ、日本中の大学で起きた大学紛争に富山大学も巻き込まれて、三年次は先生方の講

義を聴く機会が少なくて残念でした。

四、越嶺会のこと

富山大学を強く意識したことは在学中よりも、むしろ越嶺会の活動に携わってからです。四五歳を過ぎたあたりから、越嶺会の総会に時々顔を出すようになり、素晴らしい先輩方に触れ合う機会が増えました。特に日本IBMのサラリーマンを四六歳で退職しソニー生命に転職して自分の自由がきく時間が増えてからは、「人のために尽くす」という奉仕活動に生き甲斐を感じるようになり、精を出すようになった。五三歳時に独立して生保と相続支援の会社を設立し法人の経営者になったときは、関東越嶺会代表幹事としても「利他の心」で自分の利よりも他人の利のために尽くすことを学びました。関東越嶺会では、四八歳で副事務局長をお引き受けしてから代表幹事、副会長まで都合十一年間、関東越嶺会で常任上司であった学部七回安倍樹さんには実に多くのことをご指導いただきました。

誌面を借りて衷心より深謝

申し上げます。

五、おわりに

関東越嶺会は安倍樹さんの強いリーダーシップのもとに、平成七年から七年間に亘って会員の参加機会増大を狙って、様々な改革に取り組みました。つまり、越嶺会関東支部から関東越嶺会への改称を始めとして、常任幹事数の一気拡大、講演会・新年会、異業種交流会、eトモ会、eワイン会の創設です。これらのイベントがその後、後任の役員さんに引き継がれてゆき現在もすべて開催されていることには同慶の至りで、感慨深い思いです。「創業は易く守成は難し」と言いますが、安倍会長の後の役員の総合力の結実かと思えます。

今後も役員幹事の世代交代を繰り返しながらも、この同窓会が連綿とサステイナブルに継続してゆき百周年を迎えられることを祈念します。

はせがわ・けんろう
学部十八回

会員の訃報

謹んでご冥福をお祈りいたします

卒業回	卒年	お名前	ご命日	卒業回	卒年	お名前	ご命日
高商18回	昭19	澤田 義雄	令 1.7.3	学部8回	昭35	覚本 雅夫	令 2.11.11
		市村 喜之	令 1.7.27			沖 圭一	令 3.8.10
		城倉 昇	令 1.12.27	学部9回	昭36	佐々 良男	令 2.12.25
		住 浅吉	令 2.10			松原 哲也	令 3
		津屋 篤	令 3.6.28	学部10回	昭37	三木 晶	平 29.5.26
学部1回	昭28	南 和道	2019年			赤井 清宏	令 3.1.17
学部2回	昭29	風 儀也	令 3.4.1			橋本 慶辰	令 3.9.18
学部5回	昭32	濱多 和	令 2.12.14	学部15回	昭42	渡辺 禎介	令 2.7.11
		澤井 政夫	令 3.6.20	学部19回	昭46	稲場 秀雄	令 3.4.19
学部6回	昭33	土谷 亮一	令 1.9.5	学部23回	昭50	松下 雅俊	令 3.1.9
		般若 亮治	令 3.2.26	学部26回	昭53	按田 隆重	令 3.5.24
		坂井 昭衛	令 3.9.24	学部34回	昭61	古川 徹	令 2.12.16
学部7回	昭34	塩田 俊朗	令 3.4.10	短大1回	昭37	中村 誠一	令 3.2.22
		竹澤 宏	令 3.9.13	短大7回	昭43	池田 哲雄	平 28.6.14
				短大22回	昭58	坂田 定王	令 2.12.17

澤井政夫さんを偲んで

福田 明

絆園開園式典（2017年12月16日）
チェンマイ日本庭園「絆園」碑の前で

梅雨未だ明けぬ六月の末、長女祐子さんより突然訃報が入った。早速同期の宮崎甚一さんに連絡し、暫しタイ・チェンマイでの思い出話をしながら「彼は本当に良く頑張ったね、ついに亡くなったか」と二人で悲しみを新たにしました。

私にとりまして澤井さんとお付き合いの中で最大の思い出はタイ・チェンマイで行われた日本庭園プロジェクト完成式典に参加させていただいたことです。澤井さんが自

ら命名した「絆園」で一緒に日本の「陽光桜」を植樹したことは生涯忘れえぬ思い出となっています。

次に越嶺会に関する思い出としては、二〇一四年九月二十日の経済学部創立九〇周年記念式典に五嶺会関東地区から唯一人出席していただいたことです。式典後の祝賀会には同期生六名が澤井さんを中心になにに盛り上がったことは言うまでもありません。別れに際し澤井さんは「次の百周年には皆でまた会おう。それまでお互いに元気で頑張ろうな」と。百周年まであと三年となった今、残念ながら叶わぬこととなりました。

一九九八・一九九九年関東越嶺会会長もされ、NHKのプロジェクトX「アジアハイウェイ ジャングルの死闘」への出演を越嶺会報に寄稿され、評判になるなど越嶺会との関わりは多くあります。

さて、澤井さんは二〇〇七年に文集「堅香子」を刊行されていきます。その中で「七〇歳近くになって感動する喜びとボケ防止、健康保持のため俳句、詩吟を習い始めた。」

とあり、お会いしたときもよく俳句の話が出ていました。あるとき「NHK俳句コンクールに応募したところ秀作に入った」と本当に嬉しそうに話しておられたことを思い出します。俳句については相当気合が入っていたようです。また、文集「わが人生」で「先送りしない人生、やりたいたいと思うときが旬。それをひたすら追求して出会った人々とともに走り走った。そのことだけは確かな人生であった。」と書いておられます。澤井さんの八七歳の人生を想うとき、若かりし頃タイのアジアハイウェイ工事での死



2014年「経済学部創立90周年」祝賀会で

闘。現役を終えてまもなく最愛の奥様に先立たれた悲しみを乗り越え、晩年には老骨に鞭打って絆園プロジェクトの実現に向けて日本全国を奔走するなど、まさに走り走った波乱万丈の人生であり、タイの親善交流に心血を注いだ人生だったと思います。今、澤井さんは永年の夢が立派に実現したと喜び、満足して旅立たれたのではと思っています。本当に疲れ様でした。

澤井政夫氏の俳句

故郷

麦秋や散居村ゆく

ローカル線

同期会

(砺波市神島生まれ)

薫鏝(むしがれい)話尽きざる

友と酌む

タイ

「プロジェクトX」に見し

熱き過去

NHK「秀作」入選作

夏帽子声届かねば

振るばかり

(二〇一八年松山市俳句)

ふくた・あきら

学部五回

澤井政夫君の逝去を悼む

桑野 重英

コロナ禍その他の事情で、ここ二年ほど澤井君とは顔を合わせる機会が無いまま、今回彼の突然の訃報に接し大変驚いている。

在学中はあまり交際は無かったが、社会人になって以来大学の同期として今日まで六十有余年、五回生の仲間として濃密な付き合いが続いた。

卒業後私を含めた在京の会計ゼミ仲間と細々と同期会をおこなっていたところ、某日澤井君が会合に顔を出し、在関東の同期の情報を多数紹介してくれ、これをきっかけにゼミの垣根を越えた輪が一気に広がった。その後北陸や関西など他地区の同期も含めた現在の「五嶺会」に発展したのには偏に彼の尽力の然らしめるところである。

また、彼は関東越嶺会の会長として会の運営に心を砕き大学同窓会レベルでも大いに成果を挙げた。

嘗て彼の勤務先の前田建設

工業がタイ国でアジアハイウェイ工事を施工した際、現地事務副所長として大変苦労したが、そのときの活躍ぶりはNHK「プロジェクトX」でも放映された。

その後、タイ国との縁で現地に桜を植樹する活動を展開していることなども含め、彼から度々話を聞き感銘を受けたものである。

また、趣味としての詩吟や俳句を愛し日常生活での充実振りも伺わせていた。

人との付き合いを大切にし何事にも真摯に取り組む彼の人としての幅の広さは、私などの及ぶところではなく、あまりに突然の旅立ちに愛惜の念を禁じ得ない。唯々哀悼の意を表すのみである。

くわの・しげひで
学部五回



富山大学経済学部 創立百周年記念事業に ご意見・アイデア募集

二〇一四年(令和六年)は、官立高岡高等商業学校(高岡高商)創立以来一〇〇年の大きな節目の年になります。

ついては、記念事業について、あるいは募金について、また、越嶺会の活動・行事について、会員の皆様からご提案・ご意見をお聞きたいと考えています。

手紙、FAX、メール等にてお送りいただければありがたく存じます。

卒業論文を

お返しします

返却ご希望の方は、越嶺会事務局までご連絡ください。

(メール、FAX、葉書、電話などで)

送料はご負担願います。

受領書返送の際に、切手等でお願います。

なお、短大はありません。

また、最近?の方は、ワ

ープロ、パソコン入力で、既に返却済み、あるいはコピーをお持ちかと思えます。保管分は少ないようです。

さらに、これは任意ですが、返却を希望した理由、思い、受け取られた感想・感慨をお書きいただければ幸いです。ご了解を得た上で、会報に掲載したいと考えています。

会報発行協力金の

お願い

低金利のため越嶺会基金からの果実が生じない状況です。

財政支援のお気持ちで同封の振込用紙でご送金いただければありがたく存じます。

宛名シールのお名前の右下に「感謝 協力金お振込み(令和三年まで)」と印字してある方は令和三年分までいただいておりますので、振込用紙は入れておりません。

また、高商の方には入れておりません。永年にわたるご支援に感謝いたします。

原稿募集

短いもので結構です。ご投稿をお待ちしています。

コロナ対策を施して実施された行事・会合は無論歓迎します。できなかつた、中止した企画への思い、今後の計画などお知らせください。

締切

三月十五日
十月十五日

富山大学経済学部（旧制高岡高等商業学校）100年のあゆみ

1918年11月11日 第1次世界大戦終結

1920（大9）年10月

高等教育機関拡張計画に基き創立される高等学校及び
実業学校の開校期を決定
大正13,14年 横浜、高松、高岡

1921(大10) 年10月

高岡市議会は4ヵ年の寄付金募金を決議

1923年9月1日 関東大震災

1924(大13)年9月25日

高岡高等商業学校が設置された。(勅令222号)

1925(大14)年4月25日

第1回入学式 163名

1931年9月18日 柳条湖事件(満州事変)

1935(昭10)年10月20日

開学10周年記念式典

1937年7月7日 盧溝橋事件(日中戦争)

1940(昭15)年4月8日

第16回入学式
新設の東亜科57名を含め225名

1944(昭19)年4月1日

高岡経済専門学校と改称

1945年8月15日 ポツダム宣言受諾

1945(昭20)年9月1日

第19回卒業式200名卒業

1947年3月31日 教育基本法公布

5月3日 日本国憲法施行

1949年5月31日 国立学校設置法公布 1949(昭24)年5月31日

富山大学開学
文理学部経済学科設置(100名)

1953(昭28)年8月1日

経済学部昇格

1959(昭34)年4月

富山大学経営短期大学部併設

1974(昭49)年

経営学科設置決定

1979(昭54)年

経営法学科設置

1986(昭61)年

昼夜開講制導入 経営短大廃止

1991(平3)年

大学院経済学研究科開設

1996(平8)年

経済学部校舎竣工

2024(令6)年

経済学部創立100周年



富山大学基金だより

第 18 号
2021.10.1 発行

令和3年度支援事業

皆様方からご寄附いただいた基金により、令和3年度において以下の支援事業を実施しております。

● 学生海外留学支援事業 予算額：200万円

本学に在籍し一定期間(28日以上1年以内)の海外留学を計画する学生で、所属学部等の長及び指導教員から推薦のあった学生の中から、優秀な学生を選出し留学奨学金の支援を行います。

● 海外派遣プログラム支援事業 予算額：600万円

教養教育院において習熟度別の英語教育を行い、その中でも英語能力の高い学生(60名程度)に対し、海外の大学に派遣するプログラムを実施します。本年度は新型コロナウイルスの影響により、オンラインでの実施を予定しています。

● 卓越した学生への修学支援事業 予算額：242万円

各学部から推薦された成績優秀者7名の学部学生に対し、令和3年度後学期の授業料相当額(267,900円)の支援を行います。

● 夏季オンライン英語研修プログラム 予算額：60万円

コロナ禍で海外への渡航が難しい状況下、オンラインでの英語研修を希望する意欲ある学生(27名)に対して参加費用の一部負担として一人20,000円の支援を行いました。

夏季オンライン英語研修プログラム参加学生から

人文学部2年 高木 梨帆さん | 研修期間：令和3年9月13日(月)～9月24日(金)

私は今回、英語力を伸ばすことができる絶好の機会だと思い、英語研修に参加しました。本来であれば、長期休業期間を活用して、実際に海外に行き語学の勉強をしたいと考えていたのですが、コロナウイルスの影響で海外渡航が厳しい状況となっています。そのため、オンラインで開催されるアテネオ デマニラ大学のプログラムに参加しました。

授業中の説明や課題の指示はもちろん全て英語で行われたので、リスニング力が特に鍛えられたと思います。また、ただ英語を使えるようになる練習をするだけではなく、語学の効率的な学び方や人を惹きつける伝え方を、英語を使って習得することができたので、2週間という短い期間でしたが、大変有意義な時間でした。

将来は、英語などの外国語をコミュニケーションツールとして、地元の魅力を発信できるような仕事につきたいと考えています。来年には実際に現地へ赴いての長期間の海外留学も考えているので、このプログラムで学んだことを基盤にして、積極性を大切にしながら行動していきたいです。



富山大学基金の寄附受入状況

受入期間：令和3年4月～8月末

寄附の種類	寄附件数	寄附金額
富山大学基金(一般)	69 件	8,091,219 円
うちリサイクル募金	23 件	38,558 円
修学支援基金	46 件	1,468,000 円
研究等支援基金	5 件	85,000 円
合 計	120 件	9,644,219 円

寄附者様ご芳名一覽

令和3年4月～8月

寄附者のご芳名は五福キャンパス事務局棟玄関フロア及び富山大学基金ウェブサイトでもご紹介しております。
令和3年度から、ご寄附いただいた方のご芳名を基金だよりでもご紹介することとしました。

個人(50音順・敬称略)

飯沼 勝己	池本 弘之	井上 将彦	上木 祐一	上野 敦寛	女川 瑞夫	金子 信子	河原 純子
草田 修一	黒田 廉	後藤 秀隆	小堀 智生	近藤 茂	近藤 隆	犀藤 一枝	下敷領 強
鈴木 靖子	高木 繁雄	高森 邦男	竹村 樹里	武山 良三	田中 壮哉	田中 愛実	田村 俊介
寺島 裕一	寺林 忠男	床尾 邦博	床尾 文子	豊岡 尚樹	長津 輝彦	西条 寿夫	波多野雄治
前田 等	松本 良子	水野 裕文	宮 一志	宮島 光志	村山 修	森尻 実	森本 直幸
矢口 忠憲	矢倉 隆之	矢田 哲也	山崎 勝也	山本 雅輝	吉田紀美恵	(ほか公表辞退 30名)	

企業・法人等

一般財団法人立仁会 エヌアイシ・オートテック株式会社 株式会社 押田建築設計事務所 株式会社ソフト
寿電設株式会社 三耐保温株式会社 シロウマサイエンス株式会社 立山科学株式会社 立山マシン株式会社
富山大学生生活協同組合 トヨタモビリティ富山株式会社 北陸電力株式会社 有限会社 hs style (ほか公表辞退 2社)

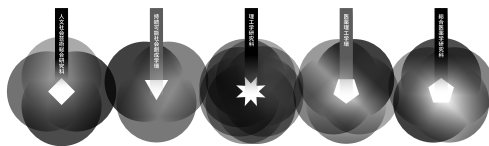
富山大学トピックス

『令和4年度から大学院が変わります。』

これまでの各大学院を、「人文社会芸術総合研究科」「持続可能社会創成学環」「理工学研究科」「医薬理工学環」「総合医薬学研究科」の5つの組織へ改組します。

令和の大改革

富山大学の大学院(修士課程)が令和4年4月、劇的に生まれ変わります！



富山大学基金に関するお問い合わせ先

富山大学総務部総務課広報・基金室(基金担当)

〒930-8555 富山市五福3190 Tel. 076-445-6178 Fax. 076-445-6014

E-mail: kikin@adm.u-toyama.ac.jp URL: https://tomidaikikin.adm.u-toyama.ac.jp/



住所等変更通知のお願い

(FAX : 076-445-6419)

住所や姓名等に変更のあった方は、FAX でお知らせ下さい。(メール・葉書も可です)

		卒回	回	年	月卒
お名前		(旧姓)			
新住所 〒□□□-□□□□					
新電話 ()-()-() 新FAX ()-()-()					
差しつかえなければメールアドレス					
勤務先					
住所 〒□□□-□□□□					
電話 ()-()-() FAX ()-()-()					

越 嶺 会

〒930-8555 富山市五福3190 富山大学経済学部内

TEL (076) 445-6411 (ダイヤルイン)

FAX (076) 445-6419

郵便振替 00710-9-14562

越嶺会ホームページ : <http://www3.u-toyama.ac.jp/etsurei>

e-mail etsurei@eco.u-toyama.ac.jp